

	アメリカ国立公文書記録管理局	ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館	イギリス国立公文書館	フランス国立公文書館	イタリア国立中央文書館	オーストラリア国立公文書館
展示機能	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の形成にかかわる重要なテーマの資料を原本で象徴的に展示。 ・原本史料保護のために、特殊に設計された展示ケースを使用。 ・デジタル化された資料に利用者が感想等の情報を付加、他の利用者に共有できるタッチモニターの展示を導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケネディ元大統領の生涯にあわせて時代をたどるテーマとし、グラフィックや当時の状況を再現する展示を展開。 ・今後の展示リニューアルではデジタル技術を活用した展示を導入。 ・展示デザイナーと研究者が協働して展示内容を企画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の形成、文明の変遷、国防などわかりやすいテーマで展示を構成。 ・鮮やかな配色のグラフィックを展示室全体に展開し、視覚効果を向上。 ・デジタル化された資料を拡大して詳しく閲覧できるビューワー展示を導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原本史料のみを展示。 ・展示室の照度を落とす、資料ごとに展示期間を決める、温湿度を調整する等、保護の取組を実施。 ・必要があれば、博物館等から資料を借用して展示。 ・展示専門職員が内容を企画し、展示会のテーマに合わせて外部委員会を組織することで内容を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書史料にあわせて絵画等物資料を展示。必要があれば他施設より資料を借用。 ・展示テーマに沿った学術委員会を組織化し、歴史専門家、アーキビスト等も企画に参加。 ・展示担当職員が関係する省や企業などスポンサーを探すことで、展示会の予算を確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時のみ開放する特別な展示室で、国家の形成に関する資料を原本で展示。 ・デジタル化された資料どうしの、関連性が図示されるタッチモニターの展示や、デジタル地図や映像を活用した展示を導入。 ・企画展示を各地方公文書館へ巡回展示として提供。
学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や憲法を学ぶ学生を対象に、公文書のリテラシー教育を行うプログラムを、専用の部屋を設け実施。 ・教員が国立公文書館の活用方法を相談できる、職員常駐の部屋を設置。 ・学習機能専門の職員が担当してプログラムを開発。職員の多くは元教員。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習のためのエッセイコンテストやオンラインゲームの学習プログラム等、若年層向けのプログラムが充実。 ・各学習プログラムごとに、企業のスポンサーから援助を受けて行う場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層を対象に、スマートボードやiPadなどを活用し、より参加性を高めたインタラクティブなプログラムを実施。 ・教師用の「副教材」を用意。プログラムをすすめる際の流れを説明したもので、教師向けの注釈入り。 ・教育部門は30名の職員で構成。現役の教師と連携し、プログラムを企画、実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児から大学生まで、対象にあわせた多様なプログラムを用意。 ・カリグラフィから公文書を学ぶワークショップ等、実践的なプログラムを実施。 ・学校の要望に応じたワークショップの開発が可能。 ・元教員の職員4名が専属で学習プログラムを企画し、専門家の意見も取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児や小学生等若年層向けに、公文書について理解してもらおう講義を、館内外で実施。 ・教育省の教育部門が学習プロジェクトを立案し、館担当者が内容を企画、実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のカリキュラムに沿い、国家の歴史に関する学習プログラムを学年ごとに設定。 ・教員向けに、所蔵資料の授業への活用方法のガイドライン化を行い、ホームページ上で提供。 ・オンライン学習プログラムのユーザーからのフィードバック機能を設置。
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> ・アーキビスト、学習担当者等、職員の担当別にアカウントを設定したブログやソーシャルメディアを活用し、ユーザーのコメントを受付。 ・18名のチームを組織。メディア、編集、デザイン、歴史などをバックグラウンドに持つ多様な職員を配置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が寄付を行うことで、館の活動への参加など特典を受けることができるメンバーシップ制度を提供。 ・学習活動を企画する職員と資金援助を受ける財団職員で情報発信チームを構成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の解説を利用者がオンライン上で掲載、編集できる「Your Archives」を展開。 ・利用者が寄付を行うことで特典を受けることができるメンバーシップ制度を提供。 ・担当職員採用の際に、マーケティングや顧客リサーチ、メディア関連の経験を重視。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Wikimedia France(オンライン百科事典制作会社)と提携することで、所蔵資料に関する情報をオンライン上で蓄積・発信。 ・ソーシャルメディアにて、資料画像をクイズ形式で掲載し、利用者のコメントを募集。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育省から各学校に対して、公文書館の利用を促すはたらきかけを実施。 ・ホームページで館の活動を紹介し、そこに利用者がコメントを追記できる機能を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵資料のデジタル化プロジェクトにおいて、ユーザーがオンライン上で資料の情報を付加できるしくみを構築。 ・資料のデジタル化をすすめるにあたり、ボランティアスタッフを活用。
その他 利用促進策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトハウスや連邦議会などの行政機関が立ち並ぶ国の中心地域に立地。 ・多目的シアターを活用し、本の出版記念フォーラムや、講演会など公文書に直接関係のないイベントを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョン・F・ケネディを象徴するボストンの海に面した地域に立地。 ・展示を観覧する際には入場料を徴収、メンバーシップや財団への寄付募集など予算確保のための活動を重視。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テムズ川沿いの王立植物園に隣接し、レストランやカフェが充実した観光地区に立地。 ・ショップでは研究者向けの専門書籍を主に販売し、展示室の解説を印刷したシートを提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏拡大、利用者の拡大をはかるためにパリ郊外の交通の便が良い土地に新館を建設。 ・館外にも展示を設置し、来館者を施設の中へ誘引するしくみを構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ郊外のコンベンション施設が集まる新都心地区に立地。 ・多目的室やアトリウムを会議や上映会、コンサート等、各種イベントに貸出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国会議事堂などの立法機関や各省庁舎、国立の図書館や美術館が立ち並ぶ地区に立地。 ・カフェでは独自に企画展示を開催し、机や壁面にグラフィックなどの展示を展開。